

2015年 秋号 No.27 2015/11/25 発行

実り多きベトナム訪問の旅

浄水装置贈呈 第2次学資支援
北部山岳地帯ハンリア村を訪問

2015年9月1日から7日間の日程で、JIFAベトナム訪問団が、浄水装置10号機贈呈、第2次学資支援贈呈のため、ベトナム・ハティン省等を訪問しました。

訪問団は、池田理事長ほか学資支援者である山際栄一氏、更井さおり氏、松岡けいこ理事、伊瀬洋昭理事、フォン氏（通訳）、ファン氏（ボランティア）の7名。

ハティン省では、学校訪問に先立ち、教育訓練局を訪問しました。局長から浄水装置の維持管理や学資支援生徒の状況報告を確実にするよう指示をいただくとともに、学資支援生徒が将来、技能実習生や留学などで日本で学べるよう協力いただけることになりました。贈呈式は、教育訓練局ゴック副所長や村役場の方々も参加される中で行われました。

浄水装置10号機はフォーチャウ小中学校へ贈呈され、支援者から寄せられた学資支援金（180万VND）は第1次22名及び第2次12名、計34名の生徒一人一人に贈呈されました。寄付を寄せられた皆様、支援者の皆様、どうもありがとうございました。

また、今回のベトナム訪問では、少数民族の子どもたちへの支援に取り組まれているクワンチュン人材派遣&建設（株）ホア会長のご尽力で、東ディエンピエン郡ティアリア村を訪れ、交流することができました。

♪ベトナムでの音楽交流

9月のベトナム訪問では、各地で音楽交流が実現しました。ベトナム人は皆さん音楽好き♪ ハンリア村、ハティン省でも生徒、先生、村の人々と歌を通じて交流が盛り上がりました。JIFAでは2016年度にアジア音楽交流会を計画しています。乞うご期待！



(上) 子どもの踊りを盛り上げる熱唱先生
(右上) 浄水装置贈呈式で唄う松岡理事

(右下) ハンリア村の皆さんと一緒に♪幸せなら手をたたこう

浄水装置1号機の更新 地域の力で実現！

浄水装置第1号機は、2009年ティンロック校に設置され、大きなトラブルもなく現在まで使用され続けてきましたが、同校がロックハー校と統合されることにより、大きな容量の浄水施設にするため設備を更新することになりました。JIFAからの寄贈に頼ることなく、学校、村、郡、保護者たちが自主的に資金を調達して設置するようハー校長が進言し、実現したとのことです。JIFAは新たな装置の水質検査を支援し確認することになりました。JIFAの安心して飲める飲用水を提供する活動が、地域の人々の間で自発的な活動として発展しつつあり、今後の良き先例となることを期待したいと思います。

浄水装置11号機予定地の水質調査を実施

2016年度に浄水装置11号機を設置する候補校を訪問しました。原水の地下水は、口に含んだ際においてと味に違和感があるものでした。ハティン予防衛生センターの水質検査では有機物の特定ができないことから、ハノイ市の専門機関に分析を依頼しています。



フォーチャウ小中学校での贈呈式と集まった子どもたち



完成した10号機の浄水施設

完成を喜ぶ子どもたちと



学資支援贈呈式（ヴァントゥリ校）

右：支援者への手紙

2015年
27号記事

9月訪越 音楽交流	1頁
訪越視察団に参加して	2頁
モン族の皆さんとの交流	3頁
学資支援学生を訪ねて	4頁
会員拡大・寄付・支援金	

ベトナムで印象的だったこと、感じたこと

更井さおり

池田理事長と出会い日本国際親善協会の会員になり、初めてベトナムを訪れたのが3年前。

視察団として浄水システム完成を祝う除幕式・交流会イベントへの参加でした。

ベトナムという国を何も知らないまま視察団に参加させていただき、ただただ楽しい思い出ばかりの旅でした。あれから3年の間、私の環境も変わり価値観も変わっていました。

もっとベトナムという国を知りたい(ベトナムに関する本を読みました)、ベトナム語を喋ってみたい(会話教室に通いました)、またベトナムを訪れたい・支援したい(安定した収入を得るために就職活動しました)。そんな中、再びベトナムを訪れるチャンスが来たのです。今度はいっぱい見て、感じて、何か人生を左右するぐらいの経験をしたいと思いました。

久しぶりに訪れたハーティン。水牛のいる閑静な田園風景はそのままでしたが、3年前に比べて建物も増え、独立記念の時期というのもあったのでしょう。LEDによる電飾でずいぶん街が賑やかに感じられました。以前より少し豊かな印象。

そして学資支援の贈呈式と浄水器の除幕式。実際に子供たちに会うと、少し照れた感じでおとなしいがとても賢そうな子ばかりでした。それだけに、貧しい境遇が胸に響き涙してしまいました。

昔、塾やおけいこごとのレッスン代を当たり前のように親から捻出してもらっていたことを思い出し、当たり前だと思っている事がここでは当たり前ではないんだと実感するとともに、少しでも多くの子供達が勉強や進学をあきらめることなく日々暮らして欲しいと思いました。

この旅で何といっても一番印象的だったことは、ベトナムとラオスの国境近くにあるディエンビエンフ、ハンリア村に行き1泊したことです。目的地が山岳地帯というのは聞いていましたが、想像を絶する山道。麓から2時間以上かけ4WDでムチ打ちになりそうな悪路を進むのですが、本当に住んでいる人が居るのか! ?と思う程の山ばかりの景色でした。

というか大自然の風景を堪能している余裕などまったくありませんでした。雨の降り具合によっては進めなくなるかもということでしたが幸い雨もなくラッキー。崖っぷちを無事に生きて目的地につけたのも凄腕の運転手さんのおかげ。

刺繍の施された民族衣装が印象的なモン族の村では、貧困も当たり前のこととして淡々とそして一生懸命生活しています。

木で組み上げられた家、窓枠など無く小屋といった感じ。大人達は粘土質の悪路を泥んこになりながらバイクで移動。何をやるわけでもなくただ佇む人々。学校には行っていないのかな?と思われる子供。村の人たちは見た事無い雰囲気の人たちが来た・・・という感じでこっちを見ている。古ぼけた何かを売っている商店らしき小屋。道のあちらこちらには動物の糞(おそらく牛)。

見た事がない異国の風景。私は非日常の光景に置かれ不思議な気分でした。しかし夢でもなんでもなく現実。私達はこの地域を支援しているベトナム人のホア会長の気遣いで、ベッドでしかも柔らかい毛布で就寝する

事が出来ました。寝袋と想像していたのでこれは本当にありがたかったです。そして夜が明けニワトリの鳴き声、太鼓の合図で目が覚めました。

学校に寄宿している子供達が一斉に掃除・食事。終わると片付け、無表情で一生懸命洗い物をする子供達がとても印象的でした。

貧困とはいえずべてを現実としてとらえ当たり前で暮らしている。不平不満をいうとかいう次元では無いか・・・とぼんやり考えながら下山しました。

今回の訪問は盛りだくさんで感じたことも多く、帰国し1週間経った今でもベトナムの風景や子供達、さまざまな人々との交流が鮮明に思い出されます。

貧困地域の学資支援&浄水器。もう支援は必要ないよ! っていうところまで支援させていただけたらと思います。近い将来再び訪れる機会があったら、その時の自分の価値観や思いで新しいベトナム、懐かしいベトナムを感じる事が出来たら良いです。貴重な経験をさせていただきどうもありがとうございました。



(左) ハンリア村にて (中) 子どもたちへプレゼント (右) 更井さんが支援する又一さん(交通事故で両親と兄弟を失い、本人も負傷した脚の手術を繰り返しています)

ヒエンさんへの手紙 松岡けいこ

ベトナムから帰国し半月が経ちましたが、あなたとお目にかかれましたあの日のことが昨日のこのように鮮やかによみがえります。

以前拝見した写真の中のあなたはまだ幼く小さくとても心細げに見えましたが、あの日お会いしたあなたはすっかり女の子らしく成長し、その眼差しには聡明さと気高さが宿っていました。

人生には数々の困難が待ち受けています。けれども、その困難をどう乗り越えるか、神にその人の真価を問われているのかもしれない。

若いあなたには無限の可能性があります。1日1日を大切に大きな夢と希望を持って気高く生きて下さい。簡単に叶う夢はまたたく間にしぼんでしまいます。しかし大きな夢と希望は叶った時に、大きな喜びと幸せが生まれます。”学び”はあなたの生きる世界を大きく広げてくれる事と思います。

希望と夢を持ち続けて下さい。私はあなたといつも共にいます。又、お逢いしましょうね。

最後になりましたが、お手紙ありがとうございました。美しい文字で綴られたお手紙にあなたの勉学に対する真摯さがうかがわれ感動をおぼえました。心からあなたを支援しています。



2015年9月25日

民族刺繍の美しい モン族の皆さんとの交流

ディエンビエン省 ハンリア村訪問

ベトナムは54の民族で構成され、北部や中部の山岳地帯には多くの少数民族がそれぞれの伝統的な暮らしを守りながら生活しています。

9月に、ホア会長のご紹介で、ディエンビエン省（ディエンビエンは” 辺境 ” という意味）東ディエンビエン郡ハンリア村を訪問しました。

ハンリア村は少数民族モン族の人々が、標高850~950mの山あいの傾斜地で主に農業を営みながら暮らしています。小中学校の生徒の8割は寄宿舎で生活しながら勉強しています。

奥地のティアマン地区にはJIFAメンバーの四輪駆動車で乗りつけられましたが、ハンリア村の小中学校に寄宿しているティアマン地区の子どもたちと会うことができました。

建国70周年記念日にかけて訪問したこともあり、ハンリア村の人々が、遠くは6時間かけて歩いて集まる記念前夜祭に参加することができました。地域の人々の踊りや寸劇や歌で盛りあがるなか、松岡けいこさんが、更井さおりさんの伴奏でベトナムや日本の歌を披露し、喝采を浴びるなど、交流を深めました。

翌朝はあいにくの雨のため、校舎内での交流会となりましたが、ホア会長から防寒服、寝具や学用品などの贈呈、JIFAから折り紙や学用品を贈呈し、皆と一緒に、身振り手振りで” 幸せなら手を叩こう ” を唄って、子供たちや地域の皆さんと楽しい時間を過ごすことができました。

ハンリア地区の平均世帯年収は700ドル程度。奥地のティアマン地区はさらに貧しく、年収は450ドル程度。ティアマン地区を訪問したホア会長のお話では、家畜と同じ屋根の下で暮らし、裸ですごしている幼い子もいる、学校へ通っていない子供たちもいるとのことでした。

ベトナムの法律では女性は18歳以上でないと結婚できないことになっていますが、この地域では未だに13歳から結婚する習慣が続いており、子どもの教育の機会を広げ、児童婚(18歳未満)をなくすことが課題とされています。

親が一週間から一カ月かけて作った美しい刺繍の民族衣装をまとった少女、鮮やかなピンクの飾りの帽子をかぶった老女、澄んだ眼の子どもたちの表情からは、消費社会に翻弄されない、心豊かな平和な民族社会を実感したのも事実です。

案内いただいた東ディエンビエン郡担当官のお話では、この地域への日本の訪問団は初めてではないかとの事でした。教育の充実や衛生の改善の課題とともに地域経済の健全な発展にむけた支援の方策を一緒に考えられればと、伝統的な刺繍サンプルを持ち帰ってきました。

辺境地域への外国人の訪問はこの時期たいへん難しいといわれるなか、ホア会長はじめ関係者の方の粘り強い交渉により実現したことに心から感謝しつつ、現地を後にしました。（伊瀬）



尽力いただいた東ディエンビエン郡人民委員会の皆様



ホア会長（左）と寄贈の寝具



刺繍の美しい民族衣装の小学生（ハンリア村）



建国記念70周年の前夜祭（ハンリア村）



川を渡る四輪駆動車 乗客はつり橋を渡りました

ベトナムの子供の状況 ディエンビエン省とベトナム全国平均との比較

項目	ディエン・ビエン	ベトナム全国平均	出典
5歳未満児死亡率 (1,000人中)	62.2	24.1	GSO,Census (2009)
改善された水源を利用する人の比率 (%)	29.9	86.7	GSO,Census (2009)
適切な衛生施設を利用する人の比率 (%)	17.8	54.0	GSO,Census (2009)
児童婚 (%)	男子 14.4 女子 17.5	男子 2.2 女子 3.1	GSO,Census (2009)
初等教育学校純就学率 (%)	男子 90.4 女子 86.8	94.9	GSO,PCFPS (2010)
中等教育学校純就学率 (%)	男子 69.2 女子 57.5	81.9	GSO,PCFPS (2010)
若者 (15歳以上) の識字率 (%)	男性 76.5 女性 50.6	男性 95.9 女性 91.6	GSO,PCFPS (2010)

出典：GSO (General Statics Office) , Census (Viet Nam Population and Housing Census) , PCFPS (Population Change and Family Planning Survey)

ベトナム学資支援学生を訪ねて

山際 栄一

9月2日、日本国際親善協会（JIFA）の皆様とベトナム・ハノイで合流し、3日早朝、空路と陸路で、JIFAが支援事業を展開している、ベトナムの首都ハノイから南へ約350km離れたハーティン省へ。ハーティン省での3日間、支援学生に逢い「見える支援」と思い、JIFA訪問団の一員として参加させていただきました

■アット言う間に

浄水装置の贈呈除幕式、昨年からの支援学生との面談、高校進学学生の家訪問等、盛りだくさんの予定のなか、

突然一人の少女の紹介が現地のソンさんから、来年是非支援学生に加えてほしいと、涙ながらの訴え

見ると澄んだ大きな瞳の少女、気がつく、思わず“おっちゃんに任せて”と関西弁で、手をあげて、アット言う間に二人の少女の支援者に



■涙と汗

私は、日頃から見える支援をと思っていたので、JIFAに無理をお願いして、私の支援学生との面会と家訪問へ農村風景の中、車で30分で少女の家へ

祖母と叔母が住む家の隣が少女の家、4畳くらいの広さでバナナの葉っぱの戸、隙間だらけの板を打ち付けた壁、板のベットと、テーブルが一つ、唯一板に貼った誇らしげな5枚の賞状 その状況に訪問団全員が言葉無く固まってしまう 私の支援学生だと思ってしまう涙を、汗とごまかして・・・

後の状況は、私の文章力では、とても・・・

でも支援少女TIMちゃん笑顔と明るい表情に救われ、又日本の豊かさに感謝と反省

通訳として同行してくれた私の友人のベトナム留学生が「山際は、また来年、TIMちゃんに逢いに来るから頑張る」と思わず心訳!! 少女TIMちゃんには、私が少年時代に祖母から教わった「学問は荷にならない」と書いた手紙を、少女の未来を信じて渡しました。

行くぞ逢いに、支援の二人の少女に!!

又、2016年に!

最後にJIFAの支援学生、少年少女全員の未来に花が咲き、大きな実がなる成長を期待する旅になりました

この支援の旅をお世話いただきましたJIFAに感謝いたします
ありがとうございました



TIMさんの表彰状



夜に勉強できるようにソーラLED照明を

平成27年度第3回理事会の開催

平成27年度JIFA第3回理事会が9月29日に開催されました。理事会では、伊瀬理事よりベトナム訪問報告の件及び新理事に黒岩智行氏を推薦する件について提案があり、承認されました。

チャリティスポーツ交流会の開催

7月8日、チャリティスポーツ大会が栃木県で開催され、スポーツ交流とともに、JIFA活動の紹介や絵画やベトナム物産の普及を行いました。

2015年度の日越文化スポーツ交流会は、墨田区八広スポーツセンターで11月1日(日)に予定されていましたが、都合で延期となりました。

皆さまからの温かいご支援をお待ちしています

JIFAへの寄付について

- ① 寄付は少額からでも受け付けています。
- ② 多額の寄付は免税にすることが可能ですので、ご相談ください。
- ③ 多額の寄付をいただいた時には、寄贈施設等にネームプレートを表示させていただき、感謝状をお渡しいたします。
- ④ ベトナム国内からの寄付もいただきやすいよう、ベトナム国内に銀行口座を開設しました。

JIFAの会員になるとこんなことが!

- ① 草の根の活動を通じて、アジアの子どもたちへの国際貢献、社会貢献ができます。
- ② 各種イベントに無料で参加できます。
- ③ 懇親会や交流旅行に格安料金で参加できます。
- ④ 手に入りにくいベトナム物産が格安料金でお手元に届きます。

一人でも多くの方に会員になっていただき活動へ参加されますよう 皆様をお誘いください!

	入会金	年会費
法人会員	30,000円	15,000円
個人正会員	10,000円	6,000円
個人賛助会員	5,000円	3,000円
学生会員	500円	1,000円

支援金
学資支援(1口 10,000円)
浄水器設置支援(1口 5,000円)

会費・支援金等は振込口座をご利用下さい

口座名：特定非営利活動法人 日本国際親善協会

☆新宿花園郵便局
記号 10150 番号 98253761
☆三井住友銀行新宿通支店
店番 661 普通 7274362

特定非営利活動法人 日本国際親善協会 (JIFA)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-26-6 新宿加藤ビル7階
TEL: 03-3352-3918 FAX: 03-3352-3962 Mail: info@jifa.org